

ふね遺産 第1回 応募案件－1


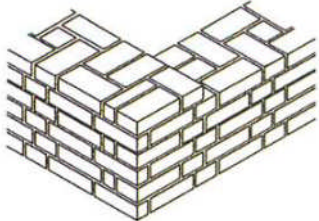
「ふね遺産」(応募様式)：旧浦賀船渠のレンガ積ドック

平成28年12月(委員推薦) 氏名：①竹川正夫、②平山次清

所属：①元住友重機械工業(株)、②元横浜国立大学

メールアドレス： hirayama-tsugukiyo-nr@ynu.ac.jp

その他の連絡先： 090-4827-5184

	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属 または所有者、及び見学等の可否	・名称：旧浦賀船渠のレンガ積ドック ・所属：住友重機械工業(株)	通常は見学不可であるが、「レンガドック活用イベント実行委員会により」毎年見学会が開催されている。ゲートがあるので、ドック底まで見学可能。
2. 対象物の作成・存在時期	浦賀船渠(株)は明治30年(1897年)に、榎本武揚らの提唱により設立され、明治32年(1999)にドライドックが建造された。2003年に浦賀工場は閉鎖されたが本ドックは現存している	
3. 現状 (写真添付)	 <p>レンガ積ドック。ゲートが見える。奥が海側。長さ180m、幅20m、深さ11m。修理専用。</p>	ドック以外にドックゲート(前倒(海側)式)、もポンプ室、タワークレーン(現在頭部は分離設置)、機関工場も残っている(ただし、当初のゲートは戸船式であった)。
4. ふね遺産認定基準の該当項目	【認定対象】(2)(4) 【認定基準】(6)(12)	
5. 歴史的・工学技術的意義	明治32年に完成した本ドックはレンガ積で、その形態をそのまま残しているのは日本ではここだけであり(注)歴史的価値が高い。 (注)近くに同じくレンガ積の川間ドックもあるが現在はゲートが開放されており、海と一体となっているので、ドック底の見学はできない。	レンガの積み方はフランドル積(通称フランス積)でおよそ215万個のレンガが使用されている。
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	(1) 産業遺産見学会パンフレット：「レンガドック活用イベント実行委員会(住友重機械工業(株)も参画、事務局は横須賀市都市部市街地整備景観課内)」(添付) (2) 浦賀歴史研究所編：浦賀ドックとレンガ 一横須賀の近代化遺産一、2014 (3) 平山次清：浦賀ドックの今、海事技術史研究会誌、第15号(2014) (4) 西澤泰彦：明治時代に建設された日本のドライドックに関する研究、土木史研究第19号、1999年	 <p>フランス積もしくはフランドル積(1枚半)</p> <p>参考文献(2)より</p>